

土木学会四国支部「土木紀行」No.72(高知県)

「浦戸大橋」



写真1 浦戸大橋

高知県の南側には、土佐湾が広がっている。土佐湾から、高知市の中央まで入ると、名称は浦戸湾に変わり、高知の海の玄関口と呼ばれている。そして、その湾の入り口に架かっている橋が浦戸大橋である。

浦戸大橋は、全長 1480m、高さ 50m、車道幅 6.5m、歩道幅 0.75m×2 の 5 径間連続箱桁であり、1972 年 7 月に完成した。浦戸大橋ができるまでは、県営渡船により、種崎－桂浜間が結ばれていたが、制限を受ける大型車等は高知市内を迂回するしかなかった。それゆえ、浦戸大橋の完成により、大型車の労力を和らげることができただろう。また、高さが海面から 50m もあるのは、橋の下を大型フェリー(大阪高知特急フェリー)が当時通行していたためである。この高さゆえ、自殺者の数が後を絶たず、対策として管理者が高さ 3m を超える忍び返しに付いたフェンスを両端に設置し、



写真2 浦戸大橋 (車道)

